



特定非営利活動法人
ニッポン・アクティブライフ・クラブ
 事務局:大阪市中央区常盤町2-1-8親和ビル4階 〒540-0028
 電話06-6941-5448(代表) FAX06-6941-5130

ホームページ <http://nalc.jp> 毎月1回 10日発行
 Eメール編集室 kaiho@nalc.jp

2010年度事業計画案まとめる

全国拠点へ一斉通知

2010年度のナルク定期総会が5月24日(月)大阪市中央区の産業創造会館で開催される。2009年度の会計報告と事業報告の承認および2010年度の予算等が決められるが、最も重要な案件は活動の道しるべとなる事業計画である。

全国総会のと各拠点でも逐次総会がもたれることになっているが、その時提案される独自の事業計画はそれを参考に立てられることになっているが、その時提案される本部は過去1年間のナルク活動を総括反省した上で、これからの1年の社会情勢や福祉課題、会員のニーズ等を展望しながら早急に計画案書を作成し配布した。

会報にも全文掲載するので会員の意見が本部や所属する拠点に多数寄せられることを期待している。

二〇一〇年度 事業計画(案)

(一) 独り暮らし高齢者への電話・訪問活動を新たに「中標津の「見廻りたい」がモデル」

我が国の平均寿命は女86歳・男79歳と世界一の長寿国になったがその反面、子ども世帯と分かれて暮らす世帯が多くなり、多くの独り暮らし世帯の増加に繋がってその数は470万世帯に上っている。内閣府調査によれば(下図参照)そのうち6割以上が老後に対する不安(病気の介護)を持っているが、近所付き合いがなく、親しい友人もおらず、相談相手もない社会的孤立・孤独が新たな社会問題となっている。この傾向は男性に多く見られるという。千葉県松戸市の常盤平団地で2001年春59歳の独居男性が死後3年に、また2002年には同じように独居男性が死後4ヵ月で発見されるという事件が起きるが、「独り暮らし高齢者の孤独死問題が大きい」が、いまだにはかばかしい成果を上げることになっていない。



季の輝き

写真・谷宏

10日に1人発生し、東京新宿区では3日に1人おきている。各地域では行政・社協が一丸となって自治会とも協力し、予防と、発生した場合の速やかで適切な処置の仕方について対策を進めているが、いまだにはかばかしい成果を上げることになっていない。

世界一の長寿国になったが

男:79歳
女:86歳

65歳以上の独り暮らし470万人

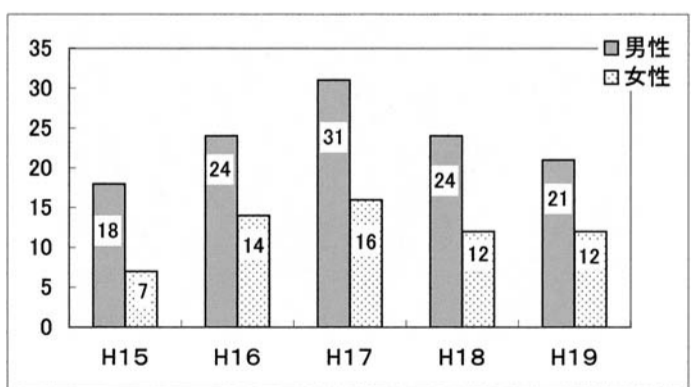


- 近所づきあいなし ... 25% (男性)
- 親しい友人なし ... 40% (男性)
- 相談相手なし ... 20% (男性)

6割以上が不安持ち

—内閣府調査より—

大阪府堺市泉北ニュータウンで発生した孤独死件数



木脇奈智子・棚山研・新井康友「泉北ニュータウンの現状と居住・福祉」(2009年)より

ナルクは設立後15年経ち、古い会員の高齢化が目立ち独り暮らしが増えている。「いざという時にナルクがあっても安心」を文字通り証明する時期に入った。孤独死を防ぐための地域への要請も高まっている。2010年度から中標津の「見廻りたい」を全拠点に広げていきたい。

▼取り組み標準マニュアルを次に示す。

- 1 担当者は班長。第2担当者は近所に住む会員で、第3は拠点代表者となっている。最近では会員外の独居高齢者の見廻りを地域から頼まれ引き受けている。
- 2 ナルクは設立後15年経ち、古い会員の健康状態を聞き取り調査して電話連絡と訪問の頻度を個別に決める。(週1回訪問し、週2回は朝に電話を入れ安否確認を原則とするが、血圧の高い人や高齢で弱っている人には電話回数をややし、週2〜3回かけるなど)
- 3 対象者のできるだけ近くに住む会員2名を担当者を決め、第1・第2と連絡
- 4 対象者には「万一緊急時の電話受付の時の連絡先」(子どもや親戚・友人)をエンディングノートに書いておくようすすめる(エンディングノートの保管場所を生前聞いておく)
- 5 緊急時に連絡する
- 6 電話連絡した時に不審な点を感じたときは、すぐに訪問する。訪問時に異常があったとき(電灯・テレビがつかないままドア・窓が開かないなど)代表や事務局長と連絡を取り、管理人や近隣の人が間に合えば警察に連絡する。場合によっては鍵を壊して入る。
- 7 対象者には「万一緊急時の電話受付の時の連絡先」(子どもや親戚・友人)をエンディングノートに書いておくようすすめる(エンディングノートの保管場所を生前聞いておく)
- 8 全く身寄りのない対象者にはエンディングノートに葬式のこと(様式や規模・費用・ナルクに一人任せてもらう)の処理も書いておいてもらう。
- 9 地域社会から要請されたとき、可能な限り取り組む(特に団地)から独り暮らしの高齢者の電話見廻り訪問の要請があつ(次頁へ続く)

喜々快々

阪神大震災が起きて15年になる。目には見えない風化させないようにとマスメディアが特集を組み、神戸市をはじめ各所で記念行事が行われた。ナルクでも西宮が呼びかけて兵庫全拠点で連携し「1月17日を忘れない。大震災の体験と教訓、残る課題への対応」と題するフォーラムを3月12日行う。阪神大震災に次ぐ被害だったのが死者3769人を出した福井地震。昭和23年6月29日午後5時過ぎに起きた。丁度その頃私は金沢の浅野川畔にある劇場で学友二人と新劇を観ていた。マグニチュード7.1の直下型だった。北陸本線が不通で家に帰れない。友人の下宿に泊まり込み翌朝すぐに学生自治委員会を開き全学生に呼びかけて直ちに現地へ救援に行くことを決めた。石川県庁の先輩たちが早速トラック6台と救急物資を出してくれていたので、それに乗り鉄橋が崩れ落ちていた九頭竜川原でテントを張り1週間泊まり込み、今で言うボランティアを行った。震源地の丸岡城下で全焼した死者の二オイが未だに忘れられない。(高畑敬一)

たときは拠点の体制の許す限り取り組む。この場合同意書は要請のあった団体から取ってもらった上で、訪問頻度、万一の時の処置など細部を事前に協定する。

(二) 新しい公共を地域でつくっていく

2009年度の事業計画で、地域の助け合い社会を再構築するため、NPOやボランティア団体が集まって市民サイドから「新しい公」を創っていくという方針を打ち出したが、政権交代がなると、鳩山首相は本年1月29日の施政方針演説で新しい公共と趣旨の「新しい公共」という名による支えあい社会の担い手を創る考えを表明。5月を目前に具体的提言をまとめることになっている。



新しい公共をつくる市民キャビネット

高畑会長が代表に、田邊副会長と河口専務理事が運営委員に就任した。今後具体的な政策提言を作るための政策部会が開かれるが、それにもナルクの関係者から数名が入る予定である。2008年「これからの地域福祉のあ

り方に関する研究が発表された報告書によると「少子高齢化が進むなか、地域の多様な課題の全てに、公的福祉サービスだけでは対応することは困難になってきている。福祉制度の谷間や制度外のニーズ等に対処できる地域における新たな支え合い(共助)の領域を拡大強化することが求められている」とし、「新たな

る公共」の創出を呼ぶかけている。この推進策として厚労省は昨年末「ひとり生活応援プラン」を中心とする「安心生活創造事業」を53地区をモデルに実施することを発表。3年間は国が助成金(専門担当者1名の人件費と事務費)を

出している間に事業を安定的・継続的に進められるNPOやボランティア団体を育成する考えである。一方厚労省老健局長通達によればナルクが進めている「シニア介護サポート」と類似する「生活・介護支援サポート」を新たに市町村に勧め、研修終了者への活動支援のため「地域支援事業交付金」や「安心生活創

造事業」の予算を使うことである。これらの大きな福祉情勢変化の中で各拠点は、①地域で新しい公共を担うにふさわしい会員の拡大とボランティア活動・経営・運営能力の強化に努めると共に他団体(NPO・ボランティア団体)と連携して新しい地域の公共を創造していく。②従来から行われていた市・町の公共サービス事業を「指定管理者制度」への参入などを機会に積極的に受託する(枚方・東大阪・亀岡拠点の例を参考に、事前に本部に相談する)③安心生活創造事業など新しい公共の事業についても計画段階で情報をキャッチし参入する。



活動は5:3:2の割合で

④国・市・町が新しい公共をつくる民間団体(NPO・ボランティア)へ助成する金は「継続的・安定的に事業を遂行している、もしくはできる無償ボランティア団体を育成するた

め」に優先してその事務所経費・専従スタッフの人員費を負担することから始めるよう要求する。見習うべきオーストラリアは高福祉中負担といって、高負担と中負担の差は圧倒的に多いボランテ

ィアが受け持っている(65歳以上では8割がボランティア)。政府はその団体の事務所代や専従者の賃金しか払っていない。金しか払っていない。金しか払っていない。金しか払っていない。

⑤日本のNPO法人は38000あるが事業規模が小さくて経営が不安定である。この活動を支え伸ばすための寄付税制の改革を求めていく。ナルクやNPO法人に対して相続財産などの資産を子どもに遺さず世のため人のためと寄付されたときに税額免除されれば新しい公共への道を拓く最短コースになることに間違いのないのである。

★「ナルク(NALC)」とはNPO法人「ニッポン・アクティブライフ・クラブ」(Nippon Active Life Club)の通称です。

の尊敬を守るためのニーズがナルク活動にも寄せられてく

(七) シニア介護サポーター養成講座は市民参加型へ

シニア介護サポーター講座は要望の強い地区から実施する。

但し、北海道函館や四国拠点のように地理的に遠すぎる拠点は単独でシニア介護サポーター養成講座を実施し、本部が講師派遣等特別の支援をする。

(八) 会計ソフトの導入講習会

未だ会計ソフトの導入に踏み切っていない拠点に参加を求め、また導入済み拠点でも新しく会計担当者になっ

た人を集めて定期研修会を実施する。

(九) HOW縁結びは一層の推進を

昨年2組の成婚を生んだHOW縁結び



はさらに内容に工夫を加えて一層の推進を図る。

(十) 拠点連絡会議の設置拡大と定期開催

未実施の地域で拠点連絡会議を設置し、定期的に集って活動交流や研修、共同で地域奉仕活動などを実施する。

(十一) 拠点みんなでやるエコ活動の推進

十五周年記念を契機に始まった「拠点みんなで作るエコ活動」は一斉植樹・ペットボトルのキャップやリングプル集め、古着のリサイクル、車に乗らないで歩く活動へと広が

った。「個人のエコ活動」も含めてさらに広がりをもたせ

(十二) サロン活動を地域に開放

サロン活動を地域に開放し多世代の交流居場所づくりに貢献する。

(十三) 子育て・子育て支援活動の充実

子育て・子育て支援は高齢者や障害者へのボランティアに参加をためらっている会員への新しい社会貢献の場である。

(十四) 拠点次期リーダー養成講座とコーディネーター講習会

近い将来拠点を担っていくリーダーを養成する研修は、2泊3日でユニットピアささやまで行う。

(十五) 認定NPO法人取得のための事業

認定NPO法人になって税制優遇措置を受けるための準備。調査は既に終了したので具体的整備・申請について検討を進める。

新しく役員になった人と、これからリーダーになる人との

も進めていく。人の研修会も例年通り実施する。

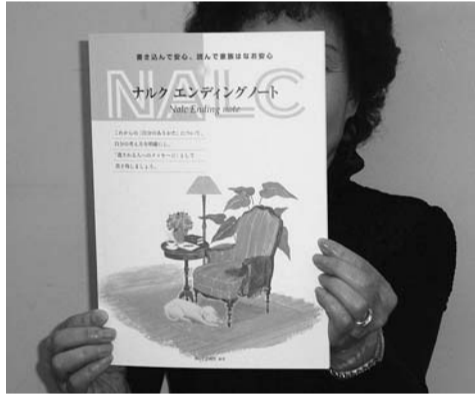
(十六) 新しいスタンスで政策提言に取り組む

ナルクは特定の政党を支持したり特定の候補者の選挙活動は一切しない。ただ年金・医療・介護の負担と給付の問題をはじめとする高齢者の生活と権利に関係する政策がどう展開されるかに無関心・無気力ではいられない。会員の大多数が重要政策については全ての政党に提言(要求)し、賛同実施を求めているが、幸い新政権はNPOを育成しその意見を積極的に政策に取り入れようとしているので、従来の「陳情型」でなく「政策づくり・参画型」で対処していく。「市民キャピネット」を通じて行うほか独自に市町村への提言

(十七) ナルクの財政を支えるための事業

ナルクは継続的・事業型のボランティア団体であり、本部・拠点共に事務所を設け事務所当番やコーディネーターを置いていつでもボランティアの申し込みに対応できるようにしている。このために費用が発生するので、会費や賛助会費を徴収しているが、それでは足りないので協力寄付金を頂いている。しかし、それでも財政的には十分ではなく、NPO法で認められている「ナルク財政を支えるための事業」に取り組んでいる。具体的には古くから始めている生活研究アドバイザー事業、エンディングノートで有名になった出版事業、平成15年から始めた福祉調査センター事業、行政から出される指定管理者制度による公的施設の管理業務などがあ

は現在、北海道・埼玉・千葉・神奈川・長野・滋賀・大阪・兵庫他全国12都道府県でナルクの活動拠点が協力して社会福祉法に基づき福祉施設などの評価・調査



は現在、北海道・埼玉・千葉・神奈川・長野・滋賀・大阪・兵庫他全国12都道府県でナルクの活動拠点が協力して社会福祉法に基づき福祉施設などの評価・調査

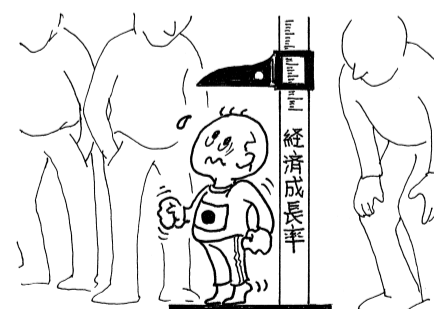
長年「愛読いただきました「知得」は今月をもって連載を終了いたします。代わりに「肩の凝らないコラム」欄「肩ほぐし」を連載します。ご期待ください。また「女性の視点」も「ボランティアよるこび記」に内容を変更します。これは各拠点から活動に奮闘するユニークな人物や活動自体を紹介していく連載です。詳しくは拠点代表にお尋ねください。(編集長)

利得

マクロ経済指標の第1位はルクセンブルグ、日本は第23位

マクロ経済指標の統計偏差値の第1位はルクセンブルグが87・77でダントツの第1位。2位はノルウェーで65・10だった。日本は44・77でOECD加盟30カ国中、23位と振るわない(図1)。

一方経済成長率の第1位はアイルランドで、7・17%の伸び。第2位はルクセンブルグ5・06%、3位ハンガリー4・43%と続く。日本の経済成長率は1・08%で、ドイツイタリアに続く最下位。



輸出・輸入ともルクセンブルグが他を圧して1位

国民1人当たりの輸出額は、日本は輸出・輸入とも約4000ドルで28位である。日本の経済の落ち込みが目立つ

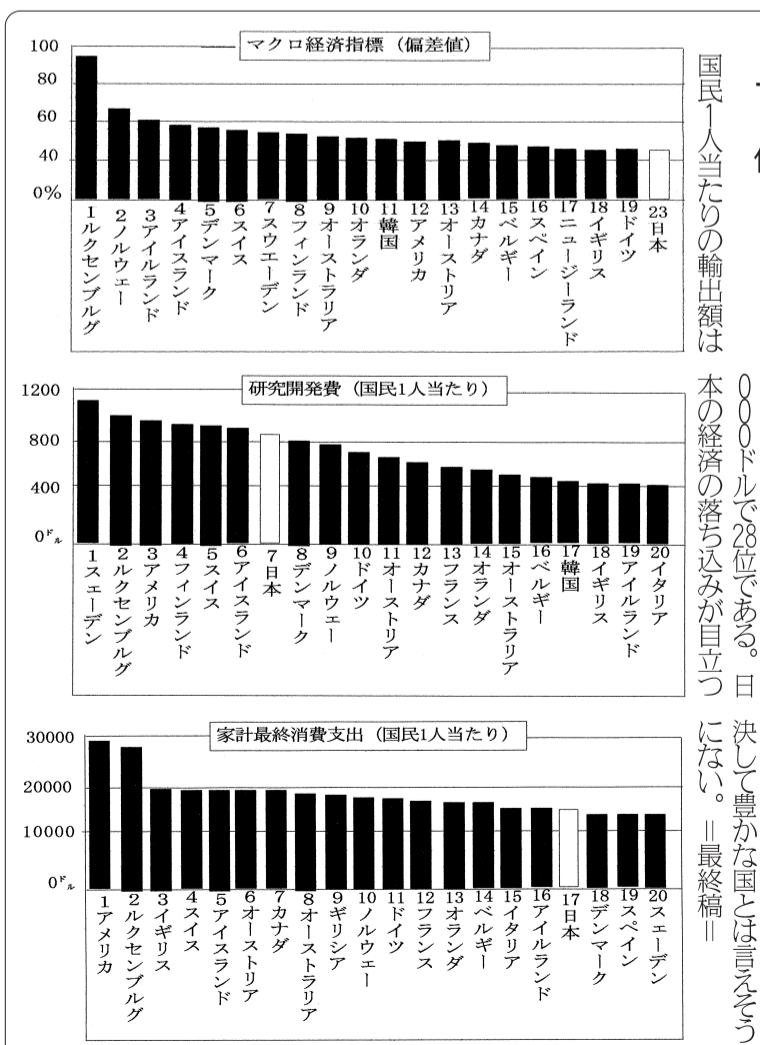
研究開発費(国民1人当たり)

国民1人当たりの国内総貯蓄(GDPから消費を差し引いたもの)は、1位がまたまたルクセンブルグで約3万ドル、2位はノルウェーの1・6万ドル、日本は6・8千ドルで13位である。

研究開発費の1位はスウェーデン、2位ルクセンブルグ、3位アメリカ、日本は第7位であった(図2)。

また家計最終消費支出の1位はアメリカ、2位ルクセンブルグ、3位イギリス、日本は17位にランクされた(図3)。

7回に亘り国民の豊かさを国際比較してきたが、日本は決して豊かな国とは言えず、決して豊かな国とは言えない。最終稿



国民の豊かさの国際比較⑦マクロ経済指標

マクロ経済指標は「経済成長率」「国民1人当たりの資本形成」「国民1人当たりの輸出額・輸入額」「国民1人当たりの国内総貯蓄」「国民1人当たりの研究開発費」などで構成されている。(白石勝也)

ルクセンブルグが11・4万ドルで2位のアイルランド3万ドルの4倍近い数字となっている。輸入もルクセンブルグがダントツである。国民1人

結果となった。日本は「国民総貯蓄」で第13位、「研究開発費」では第7位

「子育て通信」
こんなことから子育て支援
 子育て支援推進委員会
 初の子育て支援
 助成金が彦根と
 富田林拠点に

本年度の事業計画で、子育て支援活動に取り組みうえて活動資金に困っている拠点に対し「子育て支援活動導入助成金」を支給すること
 が盛り込まれた。
 本年度分を公募したところ早速、全国からたくさんのお応募をいただいた。
 常務理事会で慎重に内容を審査した結果、次の2拠点の活

・彦根拠点
 「チビッコ広場」
 (10万円)
 拠点の事務所に併設する入学前の幼児とその親を対象にした広場。
 子どもには楽しい集いを、母親には小児科医、看護師、保育士などの相談会を開く。
 ・富田林拠点
 「農と食・味噌汁・元氣いっぱい活動」
 (5万円)

寒い朝、学校へ登校してくる児童に学習する活動も実施。校、保護者、地域が協力し、温かいみそ汁を提供する「食育」活動も創設し、来年度助成金の申請をしまさから収穫、味噌



銚子拠点が会報発行30号記念として昨年

「地区懇談会」を設けています。「歩こう会」「布遊びの会」など各種同好会や年2回のフリーマーケットを活用して、会員間の顔の見える関係作りを重視しています。
 ナルク埼玉は特養とデイサービスを運営している浦和福祉会「スマイルハウス」から、喫茶設備の提供を受け、毎週日曜日の午後、利用者さんやご家族を対象に「喫茶」を自主運営しています。もちろん収支を含めてナルクが全ての責任をも

拠点リーダー訪問 60

住みよい街づくりの先頭に立つナルク埼玉

東京駅から京浜東北線等で約50分、中浦和駅の近く、ナルク埼玉の事務所を訪ねました。

埼玉拠点の設立は平成11年11月でした。その後、平成13年に埼玉西が独立、また平成16年に埼玉中央が独立したため、ピーク時には290名ほどいた会員は、現在は115名となりました。埼玉東部の「さいたま市(人口120万人)」「川口市(人口55万人)」を中心に人口300万人のエリアです。



歩こう会の皆さん

広いエリアですが会員間の情報共有を目的に、会報をはじめ会員の意思集約と交流を図るために、南北

に参加して、本読みをするのを楽しみにしています。これからも頑張りたいと思います。
 ナルクの仲間が宝物に消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

「地区懇談会」を設けています。「歩こう会」「布遊びの会」など各種同好会や年2回のフリーマーケットを活用して、会員間の顔の見える関係作りを重視しています。
 ナルク埼玉は特養とデイサービスを運営している浦和福祉会「スマイルハウス」から、喫茶設備の提供を受け、毎週日曜日の午後、利用者さんやご家族を対象に「喫茶」を自主運営しています。もちろん収支を含めてナルクが全ての責任をも



春陽園盆栽支所での活動

深いのです。時間の近い将来の利用を目的としている人が多い中において、30代の女性の活動も目立ちました。
 広瀬代表は「会員は預託点数にももちろん関心がありますが、それ以上に生き甲斐を感じてナルク活動に励んでいます。喫茶店の活動だけでなく、デイサービス「春陽苑盆栽支所」ではお食事を一緒にして欲しいというご希望があり、食事の後片付けサービスにも、生き甲斐を感じている人が多いと思います」と言われます。

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

また価値観も歳と共に変わってくる。若い頃に執着していたお金、地位、名誉といったものはすでに消え失せ、困ったときに気楽に支えてくれるのは新しいことに挑戦する意欲が減退してきたことである。昨年夏休み、小学校の学童保育で紙芝居を読みました。緊張で口の周りがカラカラになってしまいました。先生には車椅子を押していただいたり本当に面倒をおかけ

